

令和3年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470700756	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	グループホーム かぐやひめ		
所在地	(〒235-0043) 横浜市磯子区氷取沢町451-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年1月30日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホーム周辺には沢山の自然が残っており、ガラス越しに竹林を眺める事が出来ます。春には職員が竹藪から筍を採り、入居者様にも筍ご飯や煮物など提供しています。ホームの北側には桜の木があり、春になるとちょっとしたお花見もできます。以前は様々なボランティアさんの来所で入居者様に楽しんで頂いておりましたが、現在はコロナウイルスの感染が続いている為、ボランティアさんの来所はない状態です。毎日の日課としてはラジオ散歩を行っており、気候の良い日には施設周辺の散歩も行っております。食事は毎食職員が作っており、野菜料理を多く作るように心掛けています。入居者様には、簡単な調理や食前のテーブル拭き、食器拭きをして頂いています。家庭的な雰囲気の中で、日々、楽しんで頂いています。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月16日	評価機関 評価決定日	令和4年4月15日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

この事業所は京浜急行本線「能見台駅」から京浜急行バスを利用して10分の「氷取沢高校」バス停下車、徒歩5分程度の周りには畑や竹林がある静かな環境の住宅地に位置している。また、JR根岸線「洋光台駅」から横浜市営バスを利用して行くこともできる。建物は木造2階建てで各階にユニットがある。1階の玄関入るとエレベーターで2階の玄関にアクセスできる。外階段を利用して2階の玄関に行ける。建物の裏の竹林では毎年タケノコが育ち新鮮なタケノコ料理を楽しんでいる。

#### 【基本理念を日々のケアに反映した取り組み】

事業所の基本理念は「家庭に近い環境の中で、その人らしく自立生活を維持できるようにサービスを提供する。地域の皆様とともに生き、楽しみと喜びの日々を過ごせるよう、利用者様の社会参加を手助けする。」を掲げて利用者の生活リハビリとしてできる範囲での掃除の手伝いやテーブル拭き、食器拭きなどに職員と一緒に取り組んでいる。開所時から町内会に入り回覧板や町内会長からのお知らせで地域の情報を得ている。隣接したオーナーの竹林で育ったタケノコが毎年届いている。オーナーとは災害時の協力についても相談をしている。

#### 【終末期に向けた方針の共有と支援】

契約時に重要事項の説明項目として「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し、終末期への意向を確認して契約をしている。また、「看取り介護に関する指針」を説明し同意書を取り交わしている。終末期を迎えた時点で改めて医師の立会いのもとで終末期対応や看取り介護について説明し、「終末期に関する希望確認書」を作成している。終末期には看取り介護計画に移行し、ターミナル介護ケアを記録している。職員は看取りについての研修を受け「看取り介護確認シート」を記入して振り返っている。ご家族には「看取り介護実施に関するアンケート」を記入していただき今後の参考としている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム かぐやひめ
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、1,2階の事務所に掲示して、絶えず確認出来るようにしている。月に1回のスタッフ会議で、利用者様の対応等について理念の内容にあっているか話し合っている。	事業所の開所時に作成した理念を各ユニットの事務室に掲示して、職員間で共有をしている。理念には「家庭に近い環境の中でその人らしく生活できるように支援することと地域の中で共に生き、楽しみと喜びの日々を過ごせるように 手助けをする」と謳っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板も廻ってくる。地域の行事などについては、回覧板や運営推進会議の時にお聞きしているが、コロナ禍の為、ほとんどの行事は中止となっている。	開所時から氷取沢町内会に加入している。回覧板から地域の情報を得ている。オーナーや町内会長からもお知らせをもらっている。新型コロナ禍でほとんどの地域行事が中止となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、近所のお店におやつや食材を買いに行ったり、ホームの食材の配達をほぼ毎日お願いしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催して、活動状況報告を行っている。コロナ禍の為、状況を見ながら書面開催を行っている。地域ケアプラザよりイベントの紹介や、町内会長より地域の情報をお聞きしている。	運営推進会議は町内会長、オーナー、民生委員、地域ケアプラザ所長、管理者などが構成メンバーで2ヵ月ごとに開催している。令和3年度第4回目11月の開催は対面で開催できたが他はすべて書面開催となった。書面開催の案内と活動報告を届け、感想や意見を貰うようにしている。	運営推進会議の構成メンバーに利用者や家族の位置付けがありません。家族に声をかけて参加していただき、活動報告について相互で話し合い構成メンバーからの意見をもらいサービスの向上に活かしていく取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の担当者より、入所の問い合わせがある。	運営推進会議の活動報告書は高齢障害支援課に届けている。生活支援課の担当職員とは必要に応じて電話連絡をしている。横浜市からの各種研修の案内が来るので職員に回覧している。グループホーム連絡会からオンライン開催の案内が届いているが参加していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	普段より、利用者様の人格を尊重する声かけをするよう会議の中で話し合っている。身体拘束廃止について、スタッフ会議や身体拘束廃止委員会にて確認している。	身体拘束廃止委員会を3か月ごとに開催している。身体拘束に関する研修は法人の研修センター長から資料が配布され研修している。重要事項の説明として「身体拘束等行動制限についての取扱要領」を提示している。2階の玄関は帰宅願望の強い方が居るので施錠している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修に参加して、虐待についての認識を深めている。利用者様への対応に留意するように心掛けている。コロナ禍の為、書面研修となる事もある。	運営規定の中に虐待防止・身体拘束の禁止を明記している。高齢者虐待防止の研修は全体研修の中で行っている。研修センター長から高齢者虐待防止に関する資料が届き、虐待の具体的な内容や不適切なケアの内容を学習している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に2回の法人全体の研修に参加して権利擁護や成年後見制度について学んでいる。月に1回のスタッフ会議で、利用者様への対応についての改善点など話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族に重要事項説明書や利用契約書の内容に添って説明を行っている。退所時には、ご家族と利用者様の要望に添って、お話を聞いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より、ご家族様とまめに連絡を取り合っており、状態の変化や希望等、電話や来所時にお聞きしている。	家族会は開催されていない。今後の開催については検討中である。家族には必要に応じて電話連絡をしている。一時期、面会を開始できた時には家族の来所時にお話を聞くようにした。家族からの要望は利用者に関しての個別の依頼がある。運営に関する話は出ていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体でアンケートを全職員へ配布している。その結果を、改善策につなげている。	毎月、各フロアでスタッフ会議をしてカンファレンスや意見交換をしている。スタッフ会議に欠席する職員は議題ノートに意見を書き込めるようになっている。常勤者による全体会議は必要に応じて随時開催している。各フロアに連絡ノートがあり職員間で情報を共有している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の運営会議で、各部署の報告を行って、助言を貰っている。改善策については、会議や職員の連絡ノートで情報共有している。	職員の健康診断は夜勤者が年2回全職員が年1回受けている。職員の契約更新時に個別面談をするようにしているができない時もある。法人によるストレスチェックを年1回実施して法人で集計している。資格取得などについては個別で話をしている。受講費用は法人から半額の補助がある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や、法人内の研修に積極的に参加することを奨励して、介護に必要な知識や意識を高めている。	毎年、職員全体研修があり、法人の研修センター長が研修資料を用意して来所している。基本的に全職員が受講することになっていて研修報告書を提出している。勤務時間外の職員には時間給を支給している。職員の提案で冷凍食品の購入方法やミキサー食の購入方法を見直した。	キャリアパスの作成を期待します。また、個別面談を実施し、各職員の目標について把握し、適切な指導により、目標達成に繋げる事を期待します。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入している。コロナ禍の為、交流は出来ないが、アンケートの記入などは行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご家族から生活歴を伺って、ご家族からの要望や、ご本人からの希望もお聞きして、日常的に職員へ伝えて貰えるような雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの時点で、困っている内容を丁寧にお聞きするようにしている。入所時にご家族様の要望を聞いて、お互いに信頼関係を持って生活して頂けるよう、統一した対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人からの要望をお聞きして、コミュニケーションを図りながら、安心して頂けるようなサービス内容を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から家庭的な雰囲気作りに努めている。生活を共にしている感覚を利用者様と一緒に、楽しい時間を作るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子の変化について、ご家族へ連絡して説明している。ご本人の気持ちの中で、ご家族様への繋がりが強い事を職員が認識して対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の面会があり、いつでも来所して頂けるような対応を行い、来所時には、居室で過ごして頂いている。	家族や知人からの手紙や年賀状を取り次いでいる。新型コロナ禍のため葬儀には出られなかったが、法事や納骨式には出席できた方がいる。趣味のプラモデル作品を部屋に飾っている方がいる。毎日新聞を読んだり、漢字ドリルや計算ドリルに継続して取り組んでいる方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	由に生活して頂いている中で、リビングで塗り絵、ドリルなどして、お互い会話されている。午後は、歌を歌ったり、レクリエーションを楽しんでおられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族様から連絡があったり、スタッフが面会に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に、コミュニケーションをとる様に努めている。希望を随時、スタッフがお聞きして、ご本人の願いを早めに叶えるように支援している。	日々の会話の中で思いを聞く機会があり記録に残して職員で共有している。会話が少ない利用者に対しては日ごろの表情や様子を観察して利用者本位に考えて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報を職員間で共有して、ケアを行っている。入所後もコミュニケーションをとりながら、ご家族様から面会時にお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の1日の様子観察を行い、ペースに合わせたお手伝いやレクリエーション等、実行している。居室担当者を決めて、希望や身の回りのお手伝いをして、会議や連絡ノートで共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化等について、月1回のスタッフ会議で話し合っている。居室担当者が、ご本人に希望をお聞きして、ご家族様からもお聞きしている。3ヶ月時には、会議でモニタリングして、書面に残している。	居室担当者を中心にモニタリングをまとめ毎月のカンファレンスで話し合っている。入居後の介護計画は3か月で見直し、その後は短期目標は6か月、長期目標は12か月で見直している。医師や看護師、理学療法士からのアドバイスを計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの見直しを随時行い、会議や日々の話し合いの中で、状態の変化に添った対応を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の環境変化の理解とご家族の希望に添って、随時対処するようにしている。通院時の付き添いは、ご本人やご家族の状況に合わせて、スタッフも援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外部からの来所は控えていただいている状態が続いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の医師の往診が、月に2回あり、随時体調の変化時にも往診して頂いている。事故時も、連絡して受診の指示を頂いている。皮膚の状態もメールで送付して、指示を仰いでいる。	協力医療機関の医師2名が交代で月2回往診をしている。調剤薬局の薬剤師も同席し配薬をしてくれている。歯科医は3カ月に1回、定期検診をしている。治療が必要な方には毎週訪問して治療や口腔ケアを行っている。毎週看護師が訪問し健康管理をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、法人の看護師が来所して、バイタル測定や皮膚の状態や爪きりをして頂いている。状態が変わった方についても、報告して相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を面会時やご家族にお聞きしながら、医師とご家族様の面談に同席して、ご家族の意向と合わせて、退院後の方針を決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明して、書類で承認して頂いている。24時間体制の医師の往診になり、終末ケアも可能になっている。ご家族様の希望があれば、特養ホームへの入所申し込みもして頂いている。	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」や「看取り介護に関する指針」を説明し、同意書を作成している。終末期を迎えた時点で再度、医師を交えて看取り介護について説明し「終末期に関する希望確認書」にサインをもらっている。往診医には24時間連絡ができる体制になっている。職員は「看取り介護・精神的ケア」の研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けて、講習の内容を会議でスタッフへ周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為、かぐやひめ内のみの防災訓練を行っている。防災設備について大家さんに相談、助言を頂く事もある。	8月に日中火災を想定した訓練を行った。3月に夜間を想定した訓練を予定している。水害の発生の場合には2階への垂直避難を考えている。夜間の垂直避難に備え エアーベットなどを用意している。警戒警報4レベルの時には法人の特別養護老人ホームに避難することになっている。備蓄は飲料水や食品を3日分と米のローリングストックをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に年長者への尊敬の気持ちを持って、声かけに注意している。会議などでその時々場面によりどのような声かけをしているか職員同士で確認し合う事もある。	職員は「プライバシー保護」の研修を受けている。個人情報の保護については契約時に説明している。個人情報を含む書類は鍵のかかるキャビネットに保管している。排泄時や入浴時の声掛けにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、家庭的な雰囲気を職員間でも作るように留意している。随時、職員から要望などお聞きするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今を大切にして、その方に合ったペースを守りながら、レクリエーションなどに参加して頂き、より楽しめる生活を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の嗜好に合わせて、無理強いしないように助言している。清潔の保持の為、ご本人の様子観察をして、助言等行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や食前の机拭き、食器拭きなど随時、お手伝いして頂いている。	献立は調理担当の職員が考え、食材業者や近くのスーパーから購入した食材で調理している。ムース食やソフト食も業者から調達している。日中職員が3人のときにはすべて手作りで提供している。利用者は食卓や食器拭きなどできる事を手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が毎食メニューを決めて調理している。メイン料理は、肉、魚を交互に作り、出来る限り野菜を沢山使うように、心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、口腔セットを事務所預かりにしているが、その方にあった援助をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的と随時にトイレ誘導をしている。その方に合った介助方法で行っている。パットも各々の方に合ったパットを使用して頂いている。	排泄チェック表をつけて利用者の排泄パターンを把握している。利用者に合わせて声かけをしてトイレでの排泄を支援している。便座になかなか座れなかった方が職員の丁寧なケアで便座に座って排泄できるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックをして、水分量、食事量を確保出来ているかどうか、確認している。お茶だけでなく、ポカリや牛乳を提供している。日中は、体操、レクリエーション、脳トレを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大体、入浴日は職員が決めているが、拒否のある方については、変更する事もある。行事など、外出する時には、前後に変更している。	利用者は週2回入浴している。浴槽には毎日お湯を入れているので体調が悪かったり、入浴を好まない時には入浴日の変更をしている。重度化が進み浴槽に入れない方はシャワー浴で対応している。体調の悪い方には清拭も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や外出後については、居室などで休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には、連絡ノートを活用したり、日誌に記入をして、情報の共有に努めている。服薬、受診ノートに、記入して、職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事やレクリエーションなど、出来る限り、全員で参加してもらえるように声かけを行っている。誕生日会の食事のメニューはご本人の希望を確認し決めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、ほとんど外出は出来ず。コロナの感染が少し落ち着いた際に近隣のスーパーへ買い物に出かけたり、施設周辺の散歩を行った。	コロナ禍と職員不足で日常的な外出はほとんどできなかったが、四月にはドライブで桜の花見に出かけた。気分転換や日光浴を目的として玄関前のベンチで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを事務所預かりにして、必要な物は職員が購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方のご家族の来所があるが、ご本人から、電話を掛けたい時には、事務所からかけて話して頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花を飾ったり、季節毎の飾りつけや利用者様が作った作品、塗り絵などを飾り、季節感を感じていただくように、工夫している。	リビングはエアコンや加湿器、空気清浄機、換気扇、窓を開けての換気で空調管理をしている。季節ごとの作品を作り壁に飾って季節感を出している。季節の行事（七夕・クリスマス会）も取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って、テレビを見たり、気の合う仲間と話したりされている。居室で休んだり、テレビを見てすごされている時も見られている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、自宅から馴染みの物を運んでいただき、使い慣れた物が身近にある事によって、安心した時間を過して頂けるように支援している。	居室にはエアコン、電動ベッド、クローゼット、照明などが設置されている。利用者は使い慣れたタンスや机、椅子を配置し、家族の写真や仏壇などを置いている。趣味のプラモデルの作品や本を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々利用者様に合わせた声かけに留意している。出来る事を模索して、ご本人の気持ちを尊重しながら、お手伝いや塗り絵、脳トレなどして頂いている。		

事業所名	グループホーム かぐやひめ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、1,2階の事務所に掲示して、絶えず確認出来るようにしている。月に1回のスタッフ会議で、利用者様の対応等について理念の内容にあっているか話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板も廻ってくる。地域の行事などについては、回覧板や運営推進会議の時にお聞きしているが、コロナ禍の為、ほとんどの行事は中止となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、近所のお店におやつや食材を買いに行ったり、ホームの食材の配達をほぼ毎日お願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催して、活動状況報告を行っている。コロナ禍の為、状況を見ながら書面開催を行っている。地域ケアプラザよりイベントの紹介や、町内会長より地域の情報をお聞きしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の担当者より、入所の問い合わせがある。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	普段より、利用者様の人格を尊重する声かけをするよう会議の中で話し合っている。身体拘束廃止について、スタッフ会議や身体拘束廃止委員会にて確認している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修に参加して、虐待についての認識を深めている。利用者様への対応に留意するように心掛けている。コロナ禍の為、書面研修となる事もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に2回の法人全体の研修に参加して権利擁護や成年後見制度について学んでいる。月に1回のスタッフ会議で、利用者様への対応についての改善点など話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族に重要事項説明書や利用契約書の内容に添って説明を行っている。退所時には、ご家族と利用者様の要望に添って、お話を聞いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より、ご家族様とまめに連絡を取り合っており、状態の変化や希望等、電話や来所時にお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体でアンケートを全職員へ配布している。その結果を、改善策につなげている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の運営会議で、各部署の報告を行って、助言を貰っている。改善策については、会議や職員の連絡ノートで情報共有している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や、法人内の研修に積極的に参加することを奨励して、介護に必要な知識や意識を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入している。コロナ禍の為、交流は出来ないが、アンケートの記入などは行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご家族から生活歴を伺って、ご家族からの要望や、ご本人からの希望もお聞きして、日常的に職員へ伝えて貰えるような雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの時点で、困っている内容を丁寧にお聞きするようにしている。入所時にご家族様の要望を聞いて、お互いに信頼関係を持って生活して頂けるよう、統一した対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人からの要望をお聞きして、コミュニケーションを図りながら、安心して頂けるようなサービス内容を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から家庭的な雰囲気作りに努めている。生活を共にしている感覚を利用者様と一緒に、楽しい時間を作るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子の変化について、ご家族へ連絡して説明している。ご本人の気持ちの中で、ご家族様への繋がりが強い事を職員が認識して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の面会があり、いつでも来所して頂けるような対応を行い、来所時には、居室で過ごして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	由に生活して頂いている中で、リビングで塗り絵、ドリルなどして、お互い会話されている。午後は、歌を歌ったり、レクリエーションを楽しんでおられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族様から連絡があったり、スタッフが面会に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に、コミュニケーションをとる様に努めている。希望を随時、スタッフがお聞きして、ご本人の願いを早めに叶えるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報を職員間で共有して、ケアを行っている。入所後もコミュニケーションをとりながら、ご家族様から面会時にお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の1日の様子観察を行い、ペースに合わせたお手伝いやレクリエーション等、実行している。居室担当を決めて、希望や身の回りのお手伝いをして、会議や連絡ノートで共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化等について、月1回のスタッフ会議で話し合っている。居室担当が、ご本人に希望をお聞きして、ご家族様からもお聞きしている。3ヶ月時には、会議でモニタリングして、書面に残している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの見直しを随時行い、会議や日々の話し合いの中で、状態の変化に添った対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の環境変化の理解とご家族の希望に添って、随時対処するようにしている。通院時の付き添いは、ご本人やご家族の状況に合わせて、スタッフも援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外部からの来所は控えていただいている状態が続いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の医師の往診が、月に2回あり、随時体調の変化時にも往診して頂いている。事故時も、連絡して受診の指示を頂いている。皮膚の状態もメールで送付して、指示を仰いでいる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、法人の看護師が来所して、バイタル測定や皮膚の状態や爪きりをして頂いている。状態が変わった方についても、報告して相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を面会時やご家族にお聞きしながら、医師とご家族様の面談に同席して、ご家族の意向と合わせて、退院後の方針を決定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明して、書類で承認して頂いている。24時間体制の医師の往診になり、終末ケアも可能になっている。ご家族様の希望があれば、特養ホームへの入所申し込みもして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けて、講習の内容を会議でスタッフへ周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為、かぐやひめ内でのみの防災訓練を行っている。防災設備について大家さんに相談、助言を頂く事もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に年長者への尊敬の気持ちを持って、声かけに注意している。会議などでその時々場面によりどのような声かけをしているか職員同士で確認し合う事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、家庭的な雰囲気を職員間でも作るように留意している。随時、職員から要望などお聞きするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今を大切にして、その方に合ったペースを守りながら、レクリエーションなどに参加して頂き、より楽しめる生活を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の嗜好に合わせて、無理強いしないように助言している。清潔の保持の為、ご本人の様子観察をして、助言等行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や食前の机拭き、食器拭きなど随時、お手伝いして頂いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が毎食メニューを決めて調理している。メイン料理は、肉、魚を交互に作り、出来る限り野菜を沢山使うように、心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、口腔セットを事務所預かりにしているが、その方にあった援助をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的と随時にトイレ誘導をしている。その方に合った介助方法で行っている。パットも各々の方に合ったパットを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックをして、水分量、食事量を確保出来ているかどうか、確認している。お茶だけでなく、ポカリや牛乳を提供している。日中は、体操、レクリエーション、脳トレを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大体、入浴日は職員が決めているが、拒否のある方については、変更する事もある。行事など、外出する時には、前後に変更している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や外出後については、居室などで休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には、連絡ノートを活用したり、日誌に記入をして、情報の共有に努めている。服薬、受診ノートに、記入して、職員間で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事やレクリエーションなど、出来る限り、全員で参加してもらえるように声かけを行っている。誕生日会の食事のメニューはご本人の希望を確認し決めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、ほとんど外出は出来ず。コロナの感染が少し落ち着いた際に近隣のスーパーへ買い物に出かけたり、施設周辺の散歩を行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを事務所預かりにして、必要な物は職員が購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方のご家族の来所があるが、ご本人から、電話を掛けたい時には、事務所からかけて話して頂いている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花を飾ったり、季節毎の飾りつけや利用者様が作った作品、塗り絵などを飾り、季節感を感じていただくように、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って、テレビを見たり、気の合う仲間と話したりされている。居室で休んだり、テレビを見てすごされている時も見られている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、自宅から馴染みの物を運んでいただき、使い慣れた物が身近にある事によって、安心した時間を過ごすように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々利用者様に合わせた声かけに留意している。出来る事を模索して、ご本人の気持ちを尊重しながら、お手伝いや塗り絵、脳トレなどして頂いている。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所      グループホーム  
かぐやひめ

作成日

令和 4年 4月 21日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議へのご家族様の参加が出来ていない	運営推進会議へのご家族様の参加	ご家族様にお声がけをし、委員を選出する。会議の際、ご都合が合わない場合もある為、何名かにお声がけする。	1年
2	10	家族会が開催出来ない	年1回の家族会の開催	家族会を開催する為に前もって日程調整を行い、ご家族様へお手紙で開催についてお知らせし、出欠席の確認を行う。	2年  (コロナ禍である為、期間を多めにとっています)

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。